

新型コロナウイルス感染症(COVID-19) アウトブレイク中の看護職の仕事と生活に関する実態調査

ご協力の御礼とご報告

先日は、東北大学大学院医学系研究科看護管理学分野で実施した緊急調査にご協力くださり、誠にありがとうございました。この度、アンケートの集計結果を速報としてまとめましたので、お送りさせていただきます。

皆様にご回答くださいました内容は、新型コロナウイルス感染症に関する今後の施策の立案や各施設でのご対応に少しでも貢献するべく、社会への発信を続けてまいります。

【研究組織】東北大学大学院医学系研究科看護管理学分野

朝倉 京子（教授）、高田 望（助教）、杉山 祥子（助手）

〒980-8575 仙台市青葉区星陵町2-1 022-717-7932

分野ホームページ <http://www.nem.med.tohoku.ac.jp/index.html>

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)

アウトブレイク中の看護職の仕事と生活に関する実態調査

結果の速報

調査について

- ◆ 調査目的は、新型コロナウイルス感染症によって看護職の仕事と生活に生じている影響を明らかにすること。
- ◆ 宮城県内の全病院138施設の看護職を対象にオンライン調査を実施した。
- ◆ 調査期間は2020年5月1日～5月18日。
- ◆ 1,525名から回答を得た。
- ◆ 回答者の平均年齢は39.7歳、女性が1,423名（93.4％）。

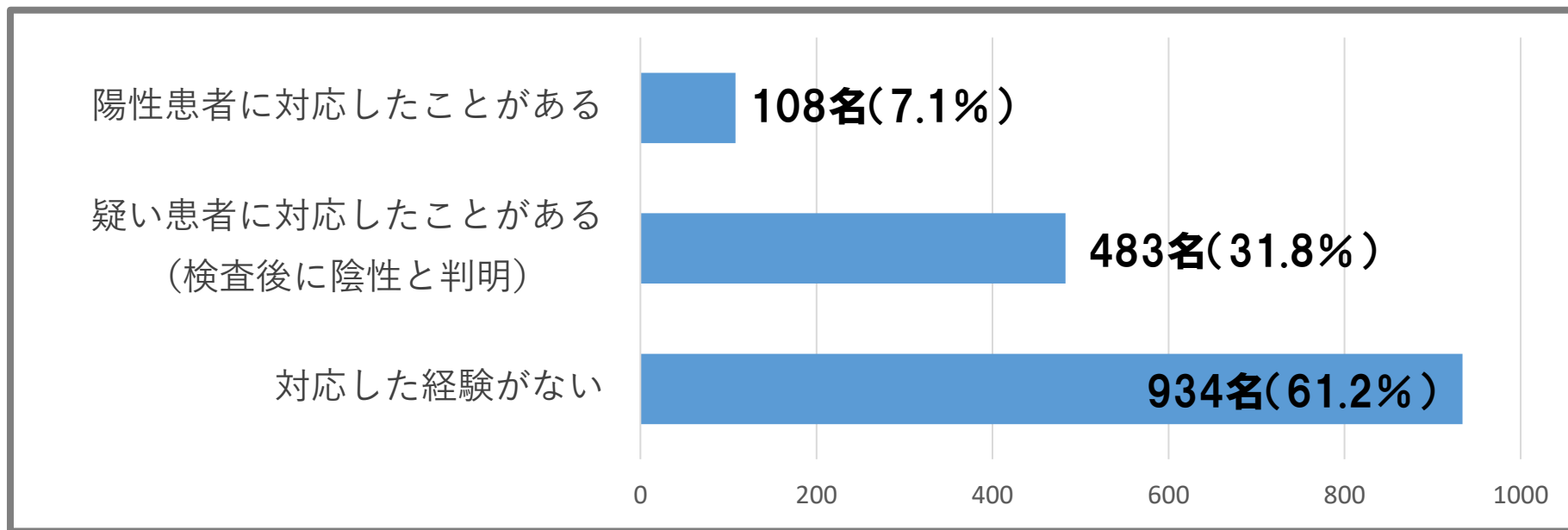
Section 1

新型コロナウイルス感染症が看護職の 心理面に及ぼす影響について

新型コロナウイルス感染症患者への対応経験

- ◆ 新型コロナウイルス感染症陽性患者に対応した経験がある看護職は108名（7.1%）だった。結果的に陰性だった患者も含めると、新型コロナウイルス感染症が疑われる患者に対応した経験がある看護職は591名（38.8%）であった。

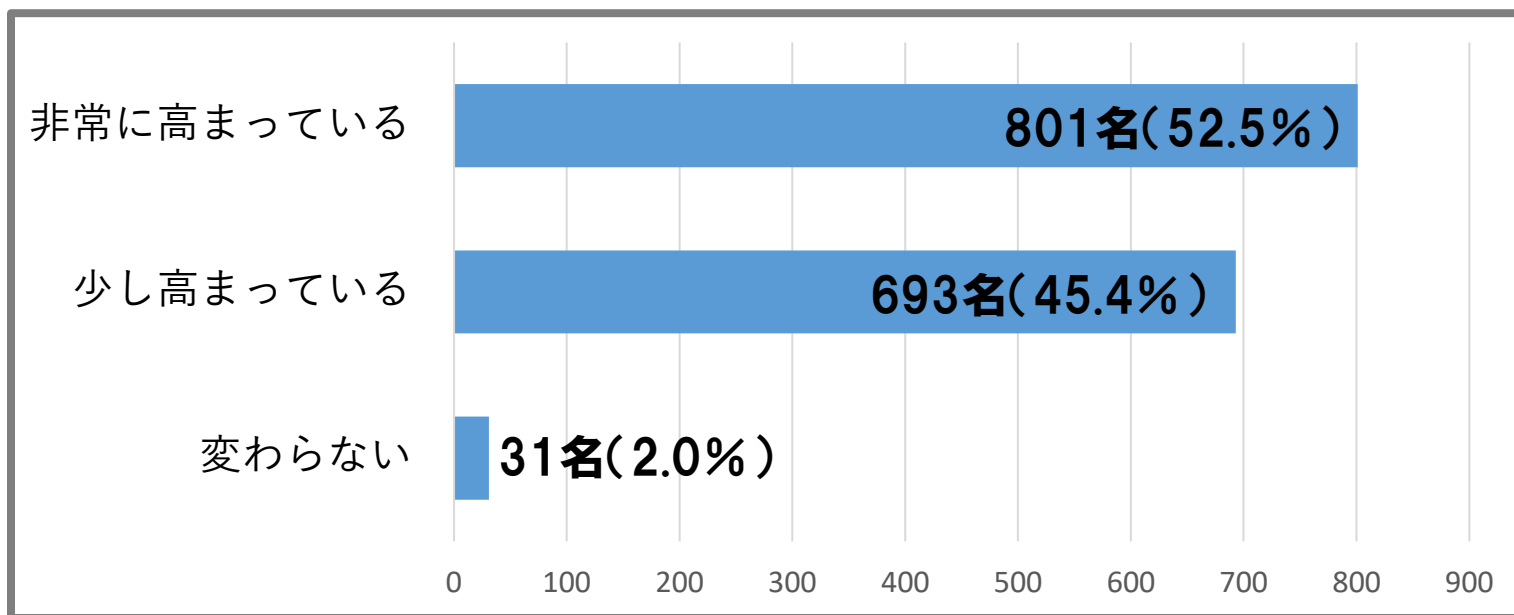
<新型コロナウイルス感染症患者に対応した経験がありますか？>



医療現場の緊張感の高まり

- ◆ 新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、職場の緊張感が「非常に高まっている」と回答した者が801名（52.5%）、「少し高まっている」も含めると1,494名（98.0%）であり、ほとんどの医療現場で緊張感が高まった状態にあることが示された。

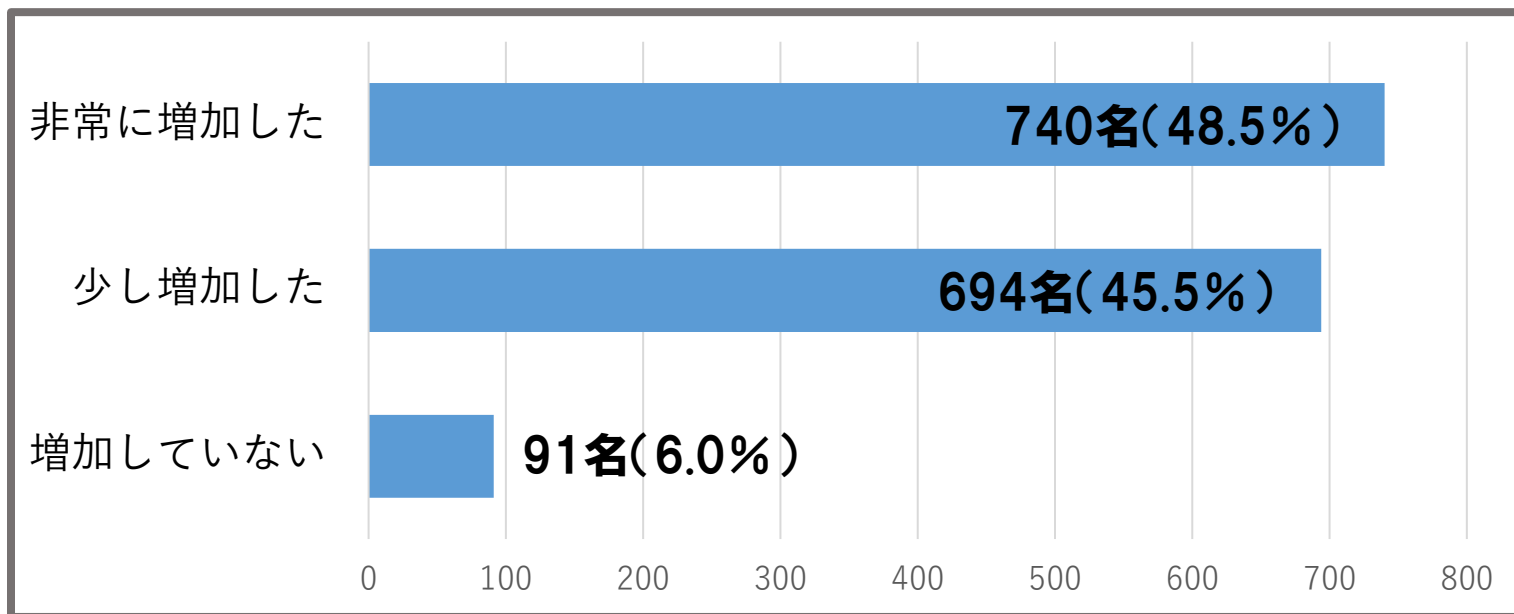
<新型コロナウイルス感染症の影響で、職場の緊張感が高まっていると感じますか？>



精神的負担の増加

- ◆ 新型コロナウイルス感染症の影響で仕事に関する精神的負担が「非常に増加した」と回答したのは740名（48.5%）だった。「少し増加した」も含めると1,434名（94.0%）の看護職が精神的負担の増加を実感していた。

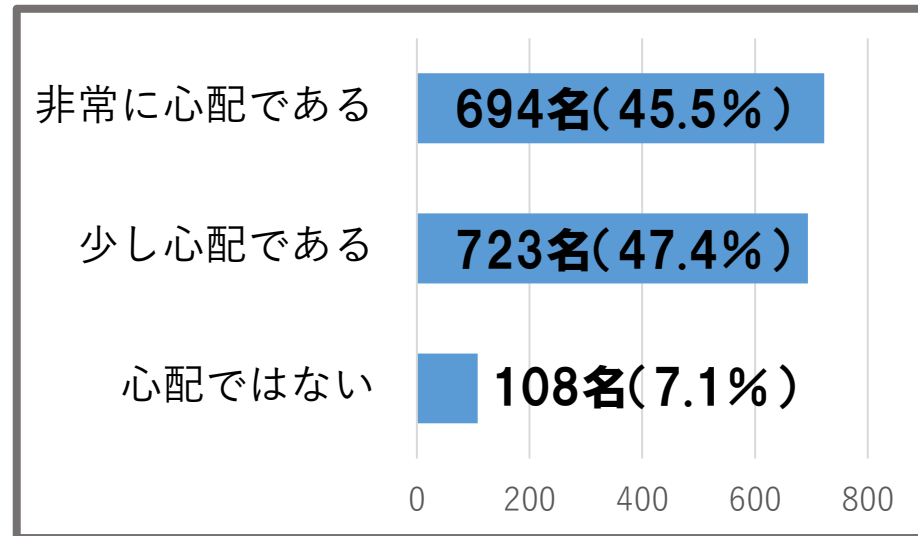
<新型コロナウイルス感染症の影響で、仕事に関する精神的負担は増加しましたか？>



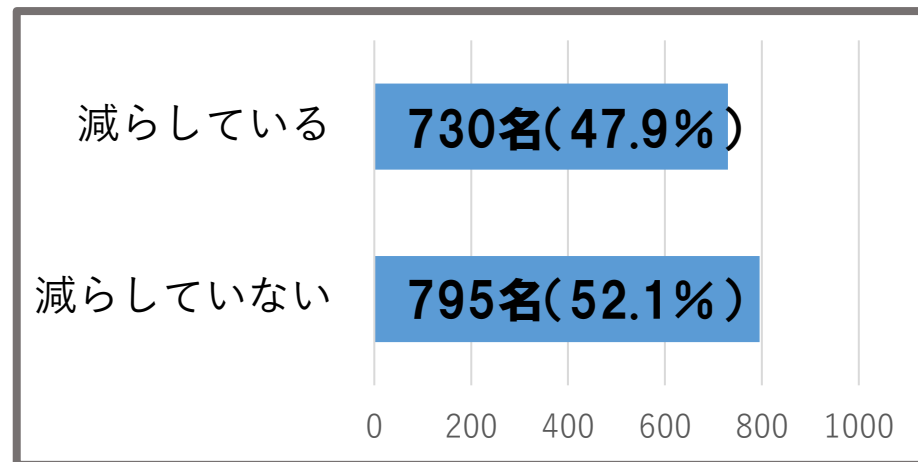
自分が家族に感染させる不安

- ◆ 1,417名（92.9%）が自分が家族を新型コロナウイルスに感染させるのではないかと不安に感じており、730名（47.9%）が家族との接触を減らしていた。看護職は自分が感染リスクが高い環境に置かれていると認識していることが示された。

<自分が家族に新型コロナウイルスを感染させるのではないかと心配ですか？>



<自分が家族に感染させることがないように、家族との接触を減らしていますか？>



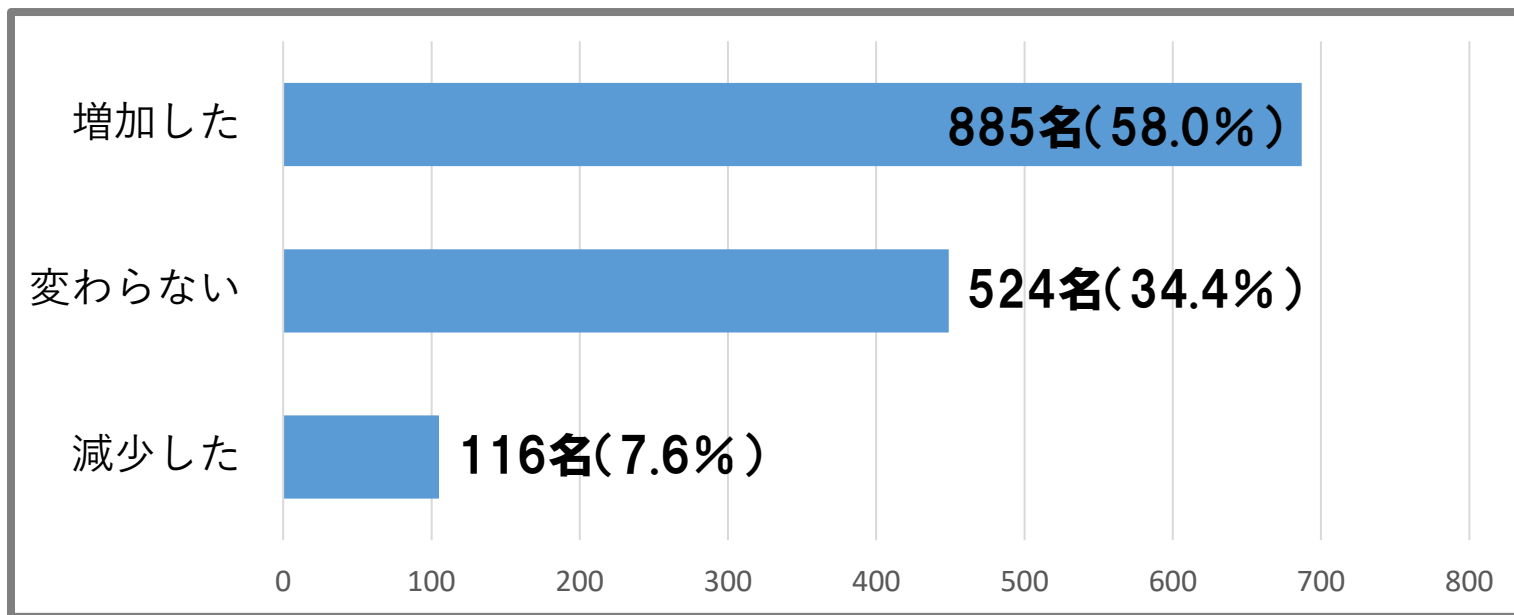
Section 2

新型コロナウイルス感染症による 看護職の業務への影響について

看護職の業務量の変化

- ◆ 新型コロナウイルス感染症の影響で「業務量が増加した」と回答した看護職が885名（58.0%）だった。
- ◆ 一方で116名（7.6%）が「業務量が減少した」と回答しており、病院が、緊急性の低い治療や検査の件数を抑制していることが背景にあると考えられた。

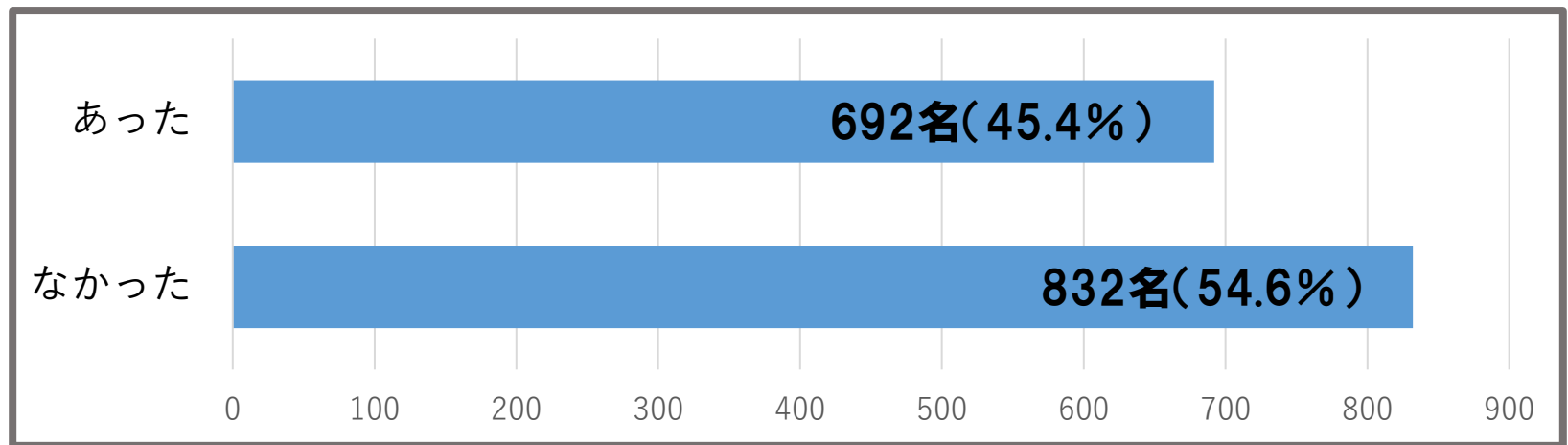
<新型コロナウイルス感染症の影響で、あなたの業務は増えましたか？>



通常行っていた業務への影響

- ◆ 新型コロナウイルス感染症に関連して、通常行っていた業務ができなくなったことがあると回答した看護職は692名（45.4%）だった。
- ◆ 自由回答からは、患者のベッドサイドを訪れる回数と時間を減らしたり、家族に対するケアの指導や精神的なケアが十分に行えていない状況にあることが示唆された。新型コロナウイルス感染症に対応する看護職を確保したしわ寄せで、部署の人員が全体的に減少し、直接コロナに対応しない看護職の業務量も増加していた（**次ページから自由回答の例**）

<新型コロナウイルス感染症の影響で、通常行っていた業務ができなくなったことがありましたか??>



「通常行っていた業務への支障」に関する自由回答の例

新型コロナウイルス感染症拡大への注意を最大限 払うことに伴う、通常行っていた患者ケアへの影響

「個別性ある看護やゆっくり話をする時間が取れなくなった」

「患者さんとの関わる時間が減った。精神的ケアなど。ケアの内容が最低限にとどまっている」

「清潔ケアなど、直接身体に触れるケアが最低限になった」

「患者の観察が最低限になった」

「表情も見れなくなったので患者さんの思いを今までみたいに汲み取れなくなった」

「患者と触れあって看護をすること、長く患者のそばにいて話を聞くことができない」

「感染疑い患者の対応をすることにより、他の患者対応が出来なくなった」

「通常行っていた業務への支障」に関する自由回答の例

新型コロナウイルス感染症患者の受け入れ態勢をとったことに伴う、通常業務への影響

「病棟丸ごと新型コロナウイルス感染症患者対応専用病棟になったので、本来の担当科の仕事は全て出来なくなった」

「コロナ対応をしてしまうと患者受け入れ制限が出てしまう」

「一般の入院患者の受け入れができなくなった」

「手術が中止延期となり、それに伴う看護ができなくなった」

「コロナ禍の影響で人員が取られることによりコロナ以外の患者を見る看護師にもしわ寄せがきている」

「通常行っていた業務への支障」に関する自由回答の例

面会制限に伴う、患者と家族に対する支援への影響

「患者さん自体も家族が面会禁止になることで精神面で不安定になったり、家族も患者の状態を気にしたり感染リスクを気にして毎日電話が来たりしている方もいた。そのため患者家族、医療者双方の負担が増えている状況がある」

「院内が面会禁止となったことで、患者さんへストレスを与えているという罪悪感がある」

「面会制限のため、ターミナルの患者さんのご家族のケアができなかった」

「在宅療養へ移行するご家族への吸引やオムツ交換等の技術指導が行えない」

通常行っていた業務への影響に関する考察

- ◆ 日常的に看護職は患者を観察したり、患者の傍で時間をかけて話を聴いたりすることで、患者に対する個別性を重視した看護ケアを提供している。新型コロナウイルス感染症の影響で、通常行っていたケアを看護職が実施したいと思っても実施できない実態があると示唆された。

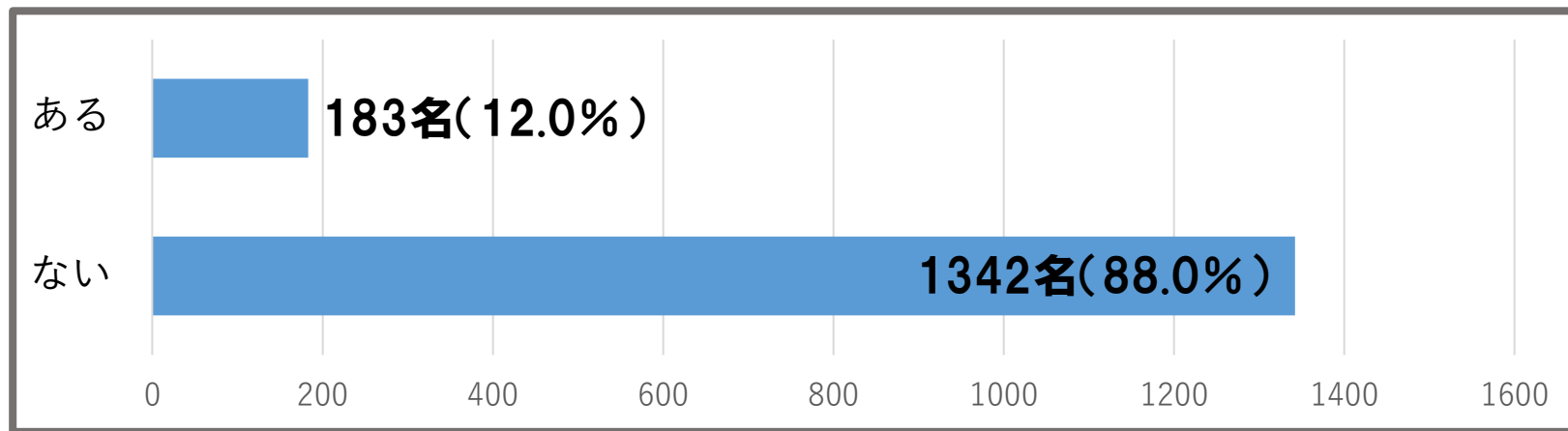
Section 3

新型コロナウイルス感染症の拡大によって 生じた看護職への差別と偏見について

看護職への差別と偏見

- ◆ 新型コロナウイルス感染症に関連する差別と偏見を経験したと回答した看護職は183名（12.0％）だった。
- ◆ 自由回答からは、あたかも看護職が「感染者」であるかのようにあからさまに避けられたり、コミュニティで穢れた存在として暗に避けられるなど、明に暗に差別的に扱われていることが明らかになった。家族や親族からでさえも同様の扱いを受けているケースも存在した。加えて、看護職の子どもや配偶者など、看護職の家族に対する社会の差別的扱いが生じている実態が明らかになった（**次ページから自由回答の例**）。

<病院で働いていることで、新型コロナウイルス感染症に関係する差別や偏見を受けたことがありますか？>



「差別と偏見」に関する自由回答の例

看護職は、あたかも「感染者」であるような差別的発言に晒されている

「スーパーでの買い物を終えて車に戻ったところ、知らない中年男性が車内に置いていた病院の駐車場許可証を覗きこんでおり、『コロナの病院の奴は出歩くな』と言われた」

「子どもが学童に行っています。緊急事態宣言の前に6年生を送る会を行いました。コロナ感染のない地区ですが、『病院で働いているから一番来て欲しくないですね。』と他の親に言われました」

「一般の方から病院関係者はあまり外出しない方がいいのではないかと言われた」

「理髪店などで医療従事者か問われ、マスクを外さないように言われた」

「症状がなくてもきっと感染していると強い口調で言われた」

「差別と偏見」に関する自由回答の例

看護職は「穢れた存在」との扱いを受ける

「看護師とわかるとあからさまに表情にでる」

「指をさされ差別をうける」

「公園でこちらを見るところこそ何か言いながらいっせいに立ち去った」

「近所のママ友から、遠回しに嫌味を言われた」

「差別と偏見」に関する自由回答の例

あからさまに距離をとられる

「看護師とバレると、距離をとられる。1～2歩離れる感じ」

「近寄るなと友人から言われました」

「玄関のドアを開けずに会話された」

「すれ違いざまに、わざとらしく距離をとられる」

「エレベーターと一緒に乗り、新型コロナウイルス感染症患者受け入れ病棟の階を押したところ距離を取られた」

「あなたは大丈夫ですか？と距離をおかれた」

「差別と偏見」に関する自由回答の例

家族や親族からの差別

「外来勤務で発熱患者の対応をするため、家族からウイルスを持ってくると言われる。コロナウイルスの感染を心配して親戚が我が家に来ることを避けている」

「看護師というだけで家族や親類から敬遠される」

「感染したら困るから会いたくないと親に言われた」

「差別と偏見」に関する自由回答の例

看護職の家族に及ぶ影響

「家族が職場で休むように非難されました」

「家族の職場より、年休で休んで欲しいと言われた」

「自分が病院で働いているため、夫がテレワークで外出自粛になった」

「息子が保育園で他の園児とは別室で過ごしていた。隔離されていた」

「子供の保育所の保護者から子供たちを登所させて欲しくないと言われた」

「子供の習い事の担当から、暗にはあるがレッスンを休むように促された」

「保育園から保育を断られた」

看護職への差別と偏見に関する考察・提言

- ◆ 個人防護具（PPE）が病院に十分に供給されない現状では、看護職の感染リスクが高くなる。このような状況が継続し、社会に報道され続ければ、ますます看護職への差別や偏見も助長されると思われる。病院に十分な個人防護具を供給するなど、早急な対策が必要である。
- ◆ 社会の「穢れ」として扱われても最前線で闘う看護職には、相応の危険手当を！

Section 4

**領域を特定せずにご回答頂いた
自由回答から浮かび上がること**

負荷を強いられるすべての看護職(医療従事者)に 手当と相応の処遇を！

- ◆ 本調査の自由回答欄からは、看護職は、専門職としての責任感と使命感を有して、新型コロナウイルス拡大の最中も最善の看護ケアを提供しようと踏ん張っている様子がうかがえた。しかし、感染拡大前から、高齢化の進行や病床削減により医療依存度の高い患者が増加し医療現場はぎりぎりの状態であり、そこを新型コロナウイルスの感染拡大が直撃して、現場の看護職がさらに疲弊している実態が垣間見えた。

自由回答の例

「医療者への心身の負担が大きいことに対し、責任感等の精神論に甘えて、報酬として支払われないのはおかしいと思う。制度を早急に見直すべきだと考える」

「看護師なので感染者対応は仕方ないと使命感だけで働いているが、やはり危険手当を多くしてもらいたい。」

負荷を強いられるすべての看護職(医療従事者)に 手当と相応の処遇を！

自由回答の例(つづき)

「入院数も減り、経営も逼迫しており、平常通り入院数を上げるように言われるが、どちらも同じように行うことは難しいと考えます。」

「コロナ以前より、医療現場は限界でした。他国に比べて賃金や患者一人当たりの看護師人数も少なく待遇が良くありません。そんな中、このようなイベントがあり、持ち堪えているのは、一重に医療関係者の自己犠牲があるからだと思います。現場は常に疲弊します。」

「昨今、高齢化の影響で患者のA D Lが著しく低下しており7対1ですら、十分な看護が行えない状況です。そこに加え、コロナ禍の影響で人員が取られることによりコロナ以外の患者を看る看護師にもしわ寄せがきています。新人を受け入れる時期とも重なり、疲弊する毎日です。今はなんとか耐え忍んでおりますが、スタッフが倒れるときが来てもおかしくないと感じます。新型コロナウイルスの拡大をきっかけにぜひ、日本の医療現場を見直して頂きたいと思います。2025年も間近に迫る中、乗り切れる自信が全くありません。」

十分な個人防護具(PPE)がなく感染のリスクに晒されている！

- ◆ 本調査の対象となった看護職は、個人防護具や感染防御策が不十分のまま働かなければならない状況におかれ、感染のリスクに晒されていると訴えている。

自由回答の例

「マスクや衛生材料が不足して身の安全を守りきれないと感じる。」

「きちんと職場としてPPEを確保してくれること、対応してくれることを強く望みます。十分な物品の確保を国として対応して頂きたい。」

「マニュアルもないまま限られた人数とPPEで働かせられる。実際にはコロナ患者をみるのは持病のないスタッフなので、勤務帯で看護師4人のうち2人が見れないことが多くあり大変な思いをする。」

家庭生活との両立に問題が生じている

- ◆ 看護職の93%は女性であり、家庭での妻・母親役割を担っていることが多い。新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、看護職に家庭生活との両立に関する悩みを生じさせている。

自由回答の例

「こどもを保育園に預けているが、保育園でも自粛要請が出ており、なるべく保育園に預けない選択肢をとりたいが、仕事を休める状況ではないので仕方なく預けている状態である。こどもも仕事も大事なので、どうしたらいいのか迷ってしまうときがあります。」

「自分が感染して家族にうつしてしまうことが怖い。また、自分のせいで息子が保育園で隔離され、友達と遊べない状況をみて、本当に申し訳ないと感じる。息子も保育園に行きたくないとぐずるようになった。医療従事者の責務で仕事をしているが、自分が大切にすべき事は何なのかと毎日考えながら過ごしている。」

自分や家族の健康を危険にさらしている

- ◆ 自由回答からは、持病がある、妊娠しているなどの新型コロナウイルス感染症に対するハイリスク要因を有する看護職であっても、感染のリスクにさらされる業務から撤退できない実態が示唆された。

自由回答の例

「持病のあるスタッフを異動させないので、持病のあるスタッフも（感染リスクに晒されながら）一緒に働いている。」

「妊娠中の病院勤務がとても不安で強いストレスを感じています。出勤停止などの措置で守ってもらいたいです。」

「仕事は仕事だが、極論家族を危険に晒す可能性がある仕事を続けていいものか、考えてしまう」

Section 5

調査全体を踏まえた考察および提言

調査全体を踏まえた考察および提言①

1. 新型コロナウイルス感染症患者の担当をしている看護職だけではなく、新型コロナウイルス感染症患者を担当していない多くの看護職にも、感染リスク、業務の煩雑化、家族との別居・接触制限、社会からの差別的扱いなどが大きな負担となっている。
2. 多くの看護職は、専門職としての使命感をもって上記の状況に耐えているが、強いストレス反応、心身の不調を訴える看護職の存在が危惧される。このような状況が続けば、看護職の離職が増加する可能性がある。

調査全体を踏まえた考察および提言②

3. 新型コロナウイルス感染症患者を直接担当する看護職に十分な危険手当、宿泊手当等を支給することはもちろんである。加えて、新型コロナウイルス感染症を直接担当しない看護職（医療従事者）に対しても、彼らの業務の煩雑化や負荷に対する特別手当等を支給することが求められる。
4. 言い換えれば、すべての病院・診療所に対して、新型コロナウイルス感染症の危険に晒されその対策をとっていることに対する診療報酬等を追加することや、通常診療が減った分の補助金等を支給することは、医療従事者の離職防止対策と医療の質の確保対策として極めて重要である。

調査全体を踏まえた考察および提言③

5. 本調査の自由回答からは、個人防護具（PPE）の圧倒的な不足が懸念され、そのことが看護職の心身の負担を増していると推測される。病院での個人防護具の不足に関する報道が多く、ますます看護職に対する社会的な差別を助長される可能性が高い。病院・診療所に対する個人防護具の十分な配分が求められる。